



Rotary Weekly



広島空港ロータリークラブ週報

2018年12月12日発行

会長 澤井一徳 / 副会長 三好敏之 / 幹事 鶴田秀樹 / SAA 伊藤 保

事務局 三原市本郷南6丁目3-26番地 三原臨空商工会 2階

TEL 0848-86-0986 / FAX 0848-86-0992 / E-mail h.kukorc@vega.ocn.ne.jp

例会場 広島エアポートホテル TEL 0848-60-8111

2018-19年度

国際ロータリー・テーマ
BE THE INSPIRATION

インスピレーションになろう



12月 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

例会

例会

休会

Xmas 例会

休会

本日のプログラム (12月12日)

写真家 藤原亜弥 様「写真の楽しみ方」

次回のプログラム (12月22日)

年次総会
Xmas 家族例会 18:30~20:30

第1134回 2018年12月5日 例会記録

点 鐘 澤井会長

国歌斉唱 ロータリーソング「四つのテスト」

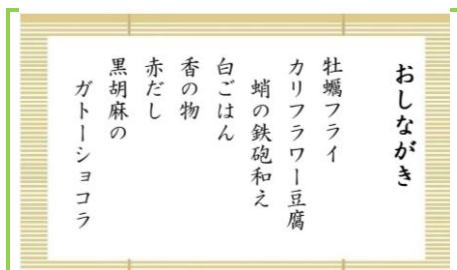
ビジター紹介

(竹原RC) 菅 義尚さん

出席報告

	会員数 名誉会員	出席者	メイク	欠席 (免除)	出席率
本日 (12/5)	29 1	20 1	1	7 1	75.00
メイク	灰谷				
前々回 (11/14)	29 1	22 1	1	5 1	82.14
メイク	灰谷				

食事時間



重森さんより報告

青少年交換学生 (2004.8~2005.7) のジェニーさんが、アメリカのニューヨークから先日私の家にやってきました。



留学していた1年間、ホストファミリーとして武野さん、小島さん、三好さん、横田さんには大変お世話になりました。

ジェニーは、現在32歳。とても元気にしています。大学院で言語学を7年くらい勉強し就職するようです。今度来るときは例会のある水曜日に来て、皆さんとお会いしたいと話しておりました。



会長時間

ロータリー12月は「疾病予防と治療月間」です。

私ごとですが、先週の金曜に胃のあたりがきりきり痛み出し、月曜の朝方5時に救急で病院に行き、昨日胃カメラ検査をしました。先生の説明では、赤くただれた部分を指して、胃炎で胃潰瘍の寸前との事。薬を調合してもらい入院は回避されました。原因は何か悪いものでも食べたか、大きなストレスでもありませんとの事。



心当たりはあり、新しい生産が始まり、忙しさのあまり、各部署での意思疎通が十分ではなくなり、みんなイライラが募っています。

「リーダーは引っ張らない」という、リーダーとしての在り方を丁寧に解説した本の中に、上司は立場が長いと、部下に対しての言動が上から目線になり、ほめることを飛ばして、できていないことを指摘する傾向にある。やって当たり前という感覚になり、結果リーダーが自分の感情のうっぶん晴らしをしているに過ぎない。それをやってリーダーの仕事と勘違いしている。そういう事をしていると、決して部下は動かない。「なんでわからない」「さっき言っただろ」と強い口調で言ったところで、意味がないと書かれていました。イライラがこんな状態なんだろうと感じた次第です。そして、ほめることの難しさも感じた自分です。

幹事報告

《配布物》週報1133号、卓話資料

黄 琳娜さんから 近況報告

(2015.4~2017.3 米山記念奨学生)

ロータリーの友11月号、ガバナー月信

《回覧》職場体験受入事業所確認

■野球同好会練習試合出欠表

日時 2018年12月16日(日)集合 9:00~

場所 長谷グランド

■Xmas家族例会出欠表

日時 2018年12月22日(土)18:30~20:30

■新年例会出欠表

日時 2019年1月9日(水)19:00~21:00

■4クラブ合同例会出欠表

日時 2019年2月7日(木)18:00~20:00

場所 竹原 大広苑

卓話時間

日本政策金融公庫 尾道支店
国民生活事業
支店長兼事業統轄 橋本恒己様



「最近の経済・金融情勢」

日本経済を理解するための代償的な指標、「実質 GDP」の需要項目の中身にどういったものがあるかを押さえたうえで、その各要素を中心に、近年の動きをざっくりと俯瞰する。

小企業の現状と見通しについて、公庫が実施している「小企業動向調査」をもとに、足元の小企業の景況感を確認。(時間の関係で説明は省略)

1. 経済・金融の現状と見通し

国内の経済・金融情勢

政府は景気判断を据え置

(内閣府「月例経済報告」:最近1年間の基調判断より)

- 2017年6月以降、「緩やかな回復基調が続いている」としてきたが、2018年1月に「緩やかに回復している」と上方修正され、10月は据え置きとなった。
- 先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待されるとしている。

10月は輸出を下方修正

- 月例経済報告の基調判断を、個人や企業、輸出などの各項目別にみたもので、10月は、輸出が下方修正となった。

表1-2 主な項目の基調判断

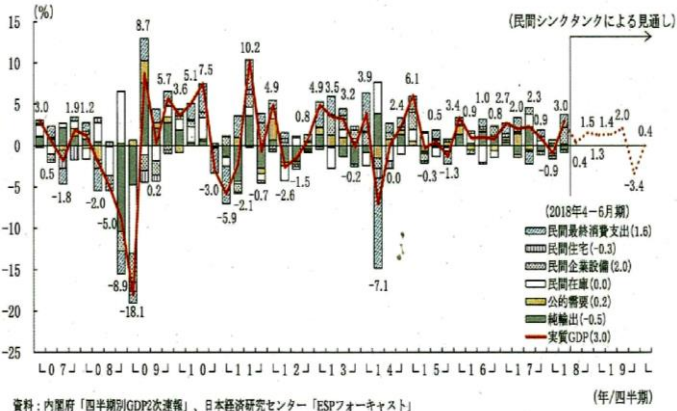
	個人消費	住宅建設	設備投資	公共投資	輸出	物価	雇用情勢
2018年8月	持ち直している	おおむね横ばいとなっている	緩やかに増加している	底堅く推移している	このところ持ち直しの動きに足跡がみられる	このところ上昇テンポが鈍化している	着実に改善している
9月	持ち直している	おおむね横ばいとなっている	増加している	底堅く推移している	このところ持ち直しの動きに足跡がみられる	このところ上昇テンポが鈍化している	着実に改善している
10月	持ち直している	おおむね横ばいとなっている	増加している	底堅く推移している	おおむね横ばいとなっている	このところ上昇テンポが鈍化している	着実に改善している

資料:内閣府「月例経済報告」

実質GDP成長率は2期ぶりにプラス

- 2018年4-6月期の実質GDP成長率(前期比年率)は、2期ぶりにプラスとなった。
- 民間シンクタンクの予測によると、来期以降はプラス基調となる見通し。

図1-1 実質GDP成長率と需要項目別寄与度



資料：内閣府「四半別GDP2次速報」、日本経済研究センター「ESPフォーキャスト」
 (注) 1 値は、季節調整年率換算値。
 2 点線は見通しを示す。
 3 ()内の数字は直近実績値の寄与度。

・なお、2019年10月1日に消費税率引き上げが予定されているため、2019年10-12月期は駆け込み需要の反動減でマイナスとなる見通しである。

参考 GDPの需要項目

GDPとは、一定期間に国内で産み出された付加価値額を需要側からみたもの

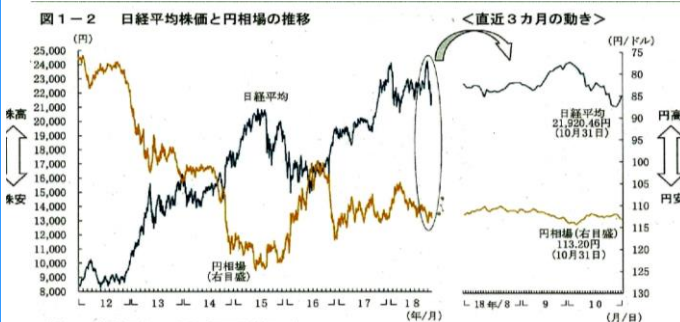
- GDPは、需要項目別に分解する事が出来る
- それぞれの需要項目の動きに影響を与える要素あり

GDP II 国内総生産	経済主体	需要項目	代表的な指標 (調査主体)	影響を与える要素と関連する統計 (調査主体)	
					個人消費
内需	個人	個人消費	消費支出(総務省) 小売業動向(経済産業省)	所得、物価、株価、消費マインド、天候など … 雇用者報酬(内閣府)、消費者物価指数(総務省)、 消費者態度指数(内閣府)	
		住宅投資	新設住宅着工戸数(国土交通省)	所得、住宅価格、金利など … 雇用者報酬(内閣府)、公示地価(国土交通省)	
企業	企業	設備投資	設備投資額(財務省) 機械受注額(内閣府)	設備の稼働率、企業の利益、受注見通し、金利など … 稼働率指数(経済産業省)、企業の経常利益額(財務省)	
		在庫投資	在庫率(経済産業省)	生産の状況、在庫率、販売見通しなど … 鉱工業生産指数(経済産業省)	
外需	政府	公共投資	公共工事請負額(東日本建設業保証)	予算、政策など … 公共事業関係費(国土交通省)	
	海外	純輸出	輸出入額(財務省)	海外経済、為替相場など … 各国のGDP	

・個人消費はGDPの約6割を占めるため、個人消費の動向は景気の行方を大きく左右する。

円相場と株価の動向

- 円相場は、やや円安で落ち着いた動きとなっている。
- 株価は、足元では調整しているものの、高い水準となっている。



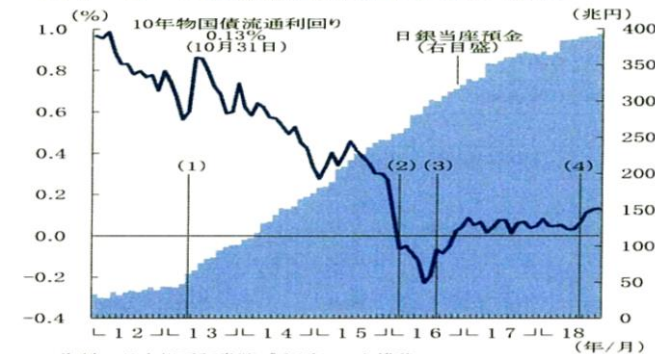
資料：日本経済新聞社、日本銀行「外国為替市場」
 (注) 円相場は、東京市場の17時時点。

・グラフでは株価と円相場は逆相関関係になっている。

金利の動向

- 長期金利は、低い水準となっている。
- 日銀当座預金は、高い水準が続いている。

図1-3 長期金利と日銀当座預金の推移

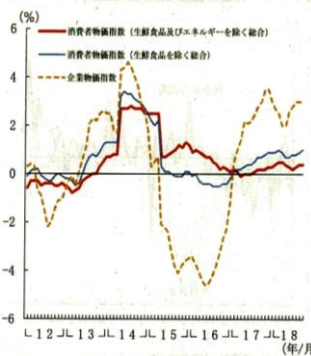


資料：日本相互証券「主要レート推移」
 日本銀行「マネタリーベース」
 (注) 国債流通利回りは、月末時点。

物価の動向

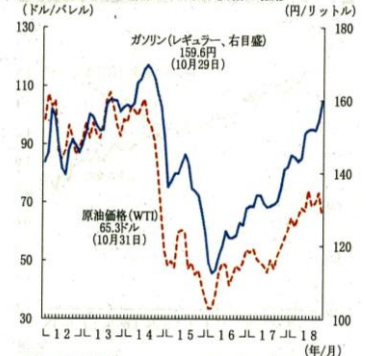
- 9月の消費者物価指数(生鮮食品及びエネルギー除く総合)は、前年同月比で横ばいとなった。
- 原油価格、ガソリン価格は、2016年以降は上昇傾向となっている。

図1-4 物価の推移(前年同月比)



資料：総務省「消費者物価指数」、日本銀行「企業物価指数」

図1-5 原油価格、ガソリン価格の推移



資料：日本経済新聞社
 経済産業省 資源エネルギー庁「石油製品価格調査」
 (注) 1 原油価格は、月末時点の期近物の終値。
 2 ガソリン価格は、各月末最終の月曜日時点。

家計の動向

<トピック>身近な商品、サービスの価格

- 2018年上半期は、納豆や牛丼など食料品を中心に値上げに踏み切る企業が増加。
- 下半期も人件費や輸送費の上昇を理由に、値上げを予定する企業が多い。

表1-3 2018年上半期に値上げした商品、サービス

改定日	企業	商品	値上げ幅
4月1日	サントリービール	業務用ビール	店頭価格で約10%の値上げ
4月1日	タカノフーズ	納豆10商品	10~20%の値上げ
4月3日	松屋フーズ	牛めしの並盛り	30円の値上げ
4月21日	日本製紙	トイレットペーパーやティッシュなど	10%以上の値上げ
6月1日	日本経済新聞社	日経産業新聞、日経MJなど紙	30~50円の値上げ
6月1日	白洋舎	クリーニング料金	5~14%の値上げ
7月2日	日清フーズ	家庭用小麦粉	1~2%の値上げ
9月1日	崎陽軒	弁当類16商品	10~50円の値上げ
9月1日	マルハニチロ	サバの缶詰33商品	約10%の値上げ

資料：日本経済新聞社、各社ホームページ

表1-4 2018年下半期に値上げを予定する商品、サービス

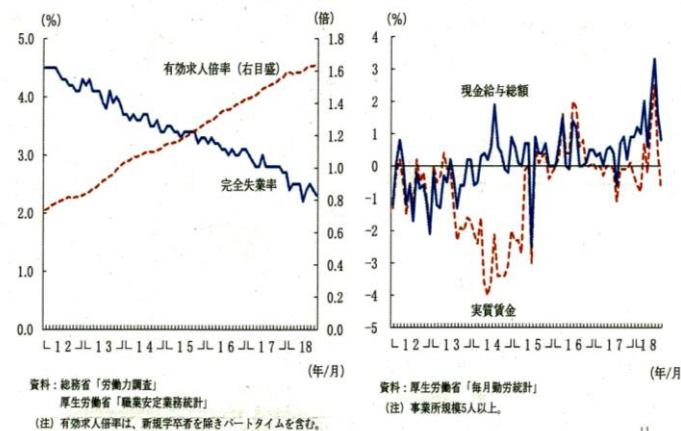
改定日	企業	商品	値上げ幅
10月1日	日本たばこ産業	たばこ150銘柄	10~90円の値上げ
10月1日	日本通運	引越サービス「身身パックS」など	1,000~9,000円の値上げ
10月1日	ヤマハ	グランドピアノなど	1~6%の値上げ
10月1日	公文教育研究会	月会費	1教科540円の値上げ
11月1日	はごろもフーズ	シーチキンなど	4~6%の値上げ
11月21日	サトウ食品工業	サトウのごはん	4~25円の値上げ
1月4日	日清フーズ	家庭用小麦粉など	1~5%の値上げ
1月10日	ユニバーサル・スタジオ・ジャパン	入園料	家族制を導入、第七期は値上げ、第八期は値下げ
2月1日	QBハウス	カット料金	120円の値上げ

資料：日本経済新聞社、各社ホームページ

雇用情勢は着実に改善している

- 失業率は、低い水準が続いている。
- 8月の現金給与総額は、13か月連続で前年同月比でプラスとなった。

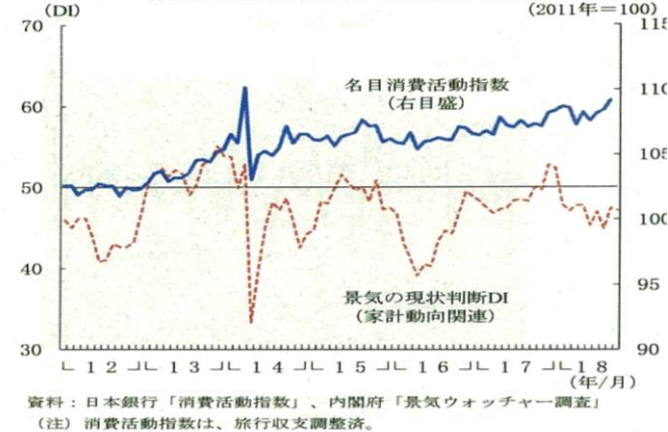
図1-6 失業率と有効求人倍率の推移(季節調整値) 図1-7 賃金の推移(前年同月比)



個人消費は持ち直している

- 8月の消費活動指数は、3か月連続で上昇した。
- 9月の景気の現状判断DI(家計動向関連)は、2か月ぶりに低下した。

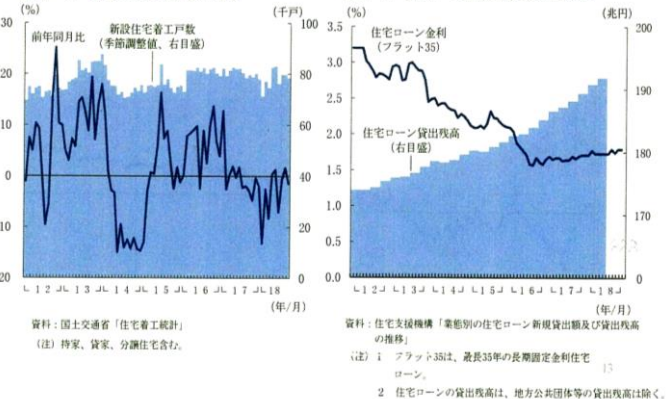
図1-8 消費活動指数(季節調整値)と景気の現状判断DI(家計動向関連)の推移



住宅建設はおおむね横ばいとなっている

- 9月の新設住宅着工戸数は、2か月ぶりに前年同月比でマイナスとなった。
- 住宅ローンの金利は低い水準にあり、住宅ローンの貸出残高は、増加している。

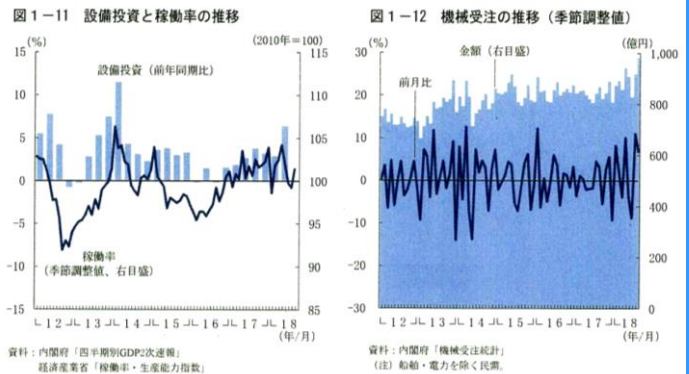
図1-9 新設住宅着工戸数の推移 図1-10 住宅ローン金利と貸出残高の推移



企業の動向

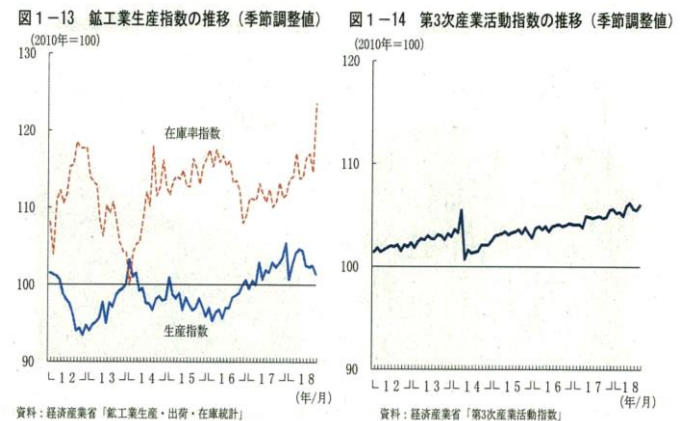
設備投資は増加している

- 設備投資は、7期連続で前年同期比でプラスとなっている。
- 8月の機械受注の民需は、2か月連続で前月比でプラスとなった。



生産は緩やかに増加している

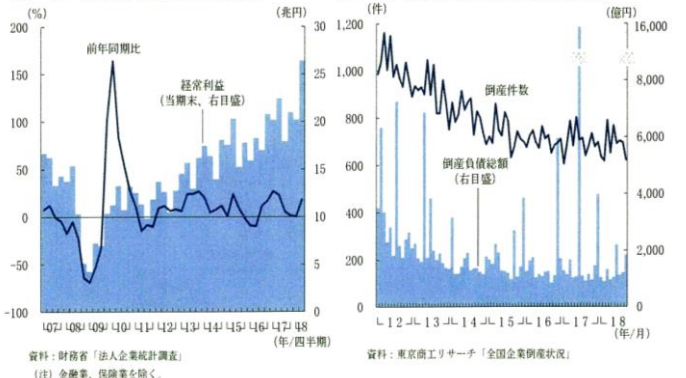
- 鉱工業生産指数は、豪雨災害や台風の影響等から足元では低下している。
- 製品の需給状況を表す在庫率指数をみると西日本豪雨や台風の影響で出荷が滞り、在庫が積み上がった。
- 第3次産業活動指数は緩やかな上昇傾向となっている



企業収益は改善している

- 2018年4-6月期の企業の経常利益は、前年同期比でプラスであり右肩上がりの状況となった。
- 企業の倒産件数は、低い水準で推移している。

図1-15 企業の売上高経常利益の推移 図1-16 企業の倒産件数と負債総額の推移

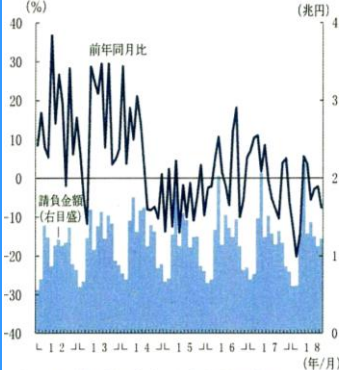


公需の動向

公共投資は底堅く推移している

- 9月の公共工事請負金額は、4カ月連続で前年同月比でマイナスとなった。
- 中部を除くすべての地域で前年同月比でマイナスとなった。

図1-17 公共工事請負金額の推移



資料：東日本建設業保証等「公共工事前払金保証統計」

表1-5 地域別請負金額の伸び率（前年同月比）

	2018年					2018年度 累計
	5月	6月	7月	8月	9月	
全国	3.5	-5.6	-2.9	-2.2	-7.6	-1.1
北海道	-0.4	-10.6	-6.8	-6.9	-24.1	-4.1
東北	-18.4	-28.6	-0.5	21.7	-1.5	-5.6
関東	18.3	-10.8	-8.6	-12.3	-1.2	-5.4
北陸	21.9	-0.4	0.8	-13.2	-14.4	12.2
中部	18.7	-0.7	5.1	4.8	1.3	6.7
近畿	-21.0	9.9	17.1	-7.1	-21.6	-3.1
中国	18.9	12.1	-8.7	-0.4	-20.4	1.7
四国	-3.4	5.1	-21.6	-2.4	-25.4	-5.8
九州	8.6	24.1	-2.6	-0.5	-2.2	3.9

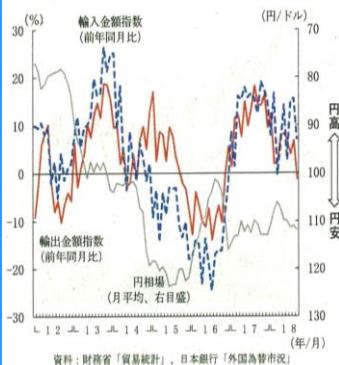
資料：東日本建設業保証等「公共工事前払金保証統計」

海外経済の動向

輸出はおおむね横ばいとなっている

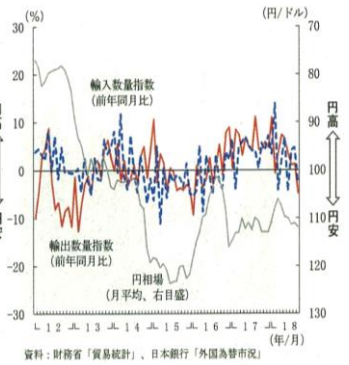
- 輸出（金額指数）は、22カ月ぶりに前年同月比でマイナスとなった。近畿を直撃した台風や北海道での地震が生産や物流を滞らせた。
- 輸出（数量指数）は、7カ月ぶりに前年同月比でマイナスとなった。

図1-18 輸出入（金額指数）の推移



資料：財務省「貿易統計」、日本銀行「外国為替市況」

図1-19 輸出入（数量指数）の推移

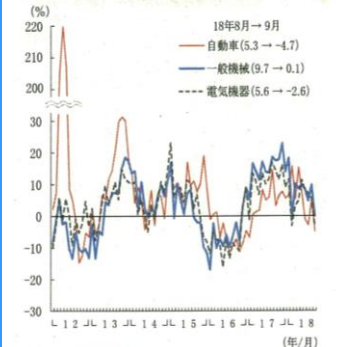


資料：財務省「貿易統計」、日本銀行「外国為替市況」

品目別・地域別輸出の動き

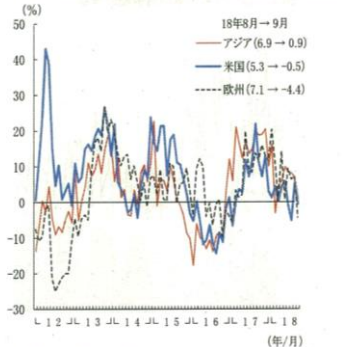
- 自動車、電気機器の輸出は、前年同月比でマイナスとなった。
- 米国、欧州への輸出は前年同月比でマイナスとなった。

図1-20 主な品目別輸出金額の推移（前年同月比）



資料：財務省「貿易統計」

図1-21 主な地域別輸出金額の推移（前年同月比）

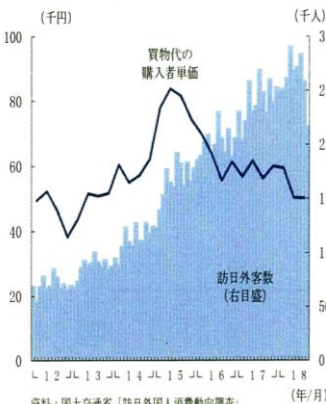


資料：財務省「貿易統計」

<トピック>インバウンドの動き

- 訪日外国人旅行者の買物代の購入者単価は、やや下がってきている。
- 外国人宿泊者数の伸び率は、地方の方が高くなってきている。

図1-22 訪日外国人旅行者の動向



資料：国土交通省「訪日外国人消費動向調査」、日本政府観光局(JTO)「訪日外客数」

(注)「訪日外客数」の2018年8月、9月の数値は推計値である。

表1-6 都道府県別外国人宿泊者数の伸び率

順位	都道府県	宿泊者数 (18年1~8月)	前年同期比 伸び率
			(単位：人、%)
1	宮城県	239,060	80.2
2	青森県	242,900	64.8
3	岩手県	149,820	53.4
4	山梨県	1,505,020	45.6
5	山形県	108,360	43.0
6	鳥取県	113,830	35.1
7	岐阜県	834,890	33.5
8	熊本県	677,500	33.1
9	愛媛県	147,410	32.5
10	福島県	93,550	31.6

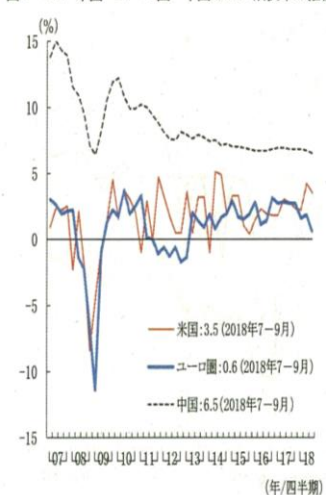
資料：国土交通省「宿泊旅行統計調査」

(注)前年同期比の伸び率が大きい順に上位10都道府県を並べたもの

海外経済は全体として緩やかに回復

- 米国の2018年7-9月期のGDP成長率は、18期連続でプラスとなった。個人消費や在庫投資が堅調だったため、高い伸びとなった。
- ユーロ圏は、22期連続でプラスとなった。ただし、英国のEU離脱の影響などが懸念材料である。
- 中国の実質GDPは、6%台の高い水準となった。
- 一時期に比べて成長率は鈍化し、足元ではおおむね横ばいとなっている。

図1-23 米国・ユーロ圏・中国のGDP成長率の推移



料：米商務省、EUROSTAT、中国国家統計局

注)「」未満、ユーロ圏のGDP成長率は、前期比半準準算値(季節調整値)。

2 中国のGDP成長率は、前年同期比。

表1-7 世界の経済成長率見通し

	世界					
	実績		見通し		2018年7月の見通しからの修正幅	
	2016	2017	2018	2019	2018	2019
世界	3.2	3.7	3.7	3.7	-0.2	-0.2
日本	1.0	1.7	1.1	0.9	0.1	0.0
米国	1.5	2.2	2.9	2.5	0.0	-0.2
ユーロ圏	1.8	2.4	2.0	1.9	-0.2	0.0
ドイツ	1.9	2.5	1.9	1.9	-0.3	-0.2
イタリア	0.9	1.5	1.2	1.0	0.0	0.0
英国	1.8	1.7	1.4	1.5	0.0	0.0
アジア新興市場および途上国地域	6.5	6.5	6.5	6.3	0.0	-0.2
中国	6.7	6.9	6.6	6.2	0.0	-0.2
インド	7.1	6.7	7.3	7.4	0.0	-0.1

資料：IMF, World Economic Outlook (2018年10月)

- ・ ただし、米中貿易摩擦が影を落とし、世界経済の成長率の見通しを引き下げた。
- ・ 米国の通商政策や金融引き締め、地政学リスクなども懸念され、今後を注視していく必要がある。

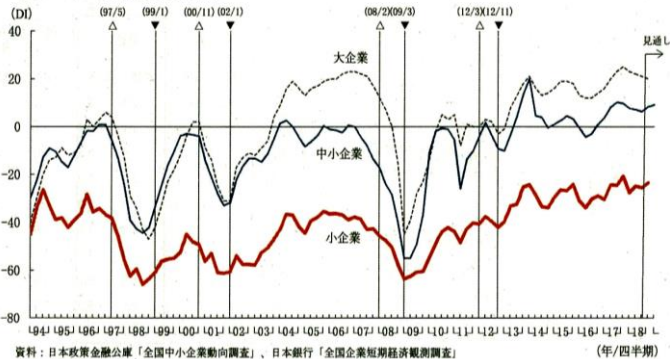
2. 小企業の現状と見通し

景況感

小企業の景況は持ち直しの動き

- 2018年7-9月期の業況判断DIは、前期からマイナス幅が拡大し、▲25.6となった。
- 小企業の景況は、持ち直しの動きがみられる。

図2-1 業況判断DIの推移



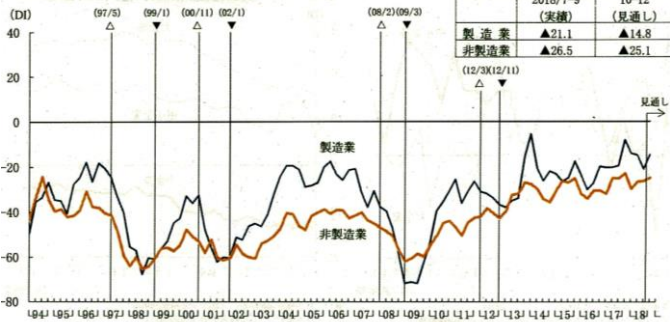
資料：日本政策金融公庫「全国中小企業動向調査」、日本銀行「全国企業短期経済観測調査」
 (注) 1 「良い」企業割合 - 「悪い」企業割合 (大企業、小企業)
 2 前年同期比で「好転」企業割合 - 「悪化」企業割合 (中小企業、季節調整値)
 3 中小企業については、2期先 (～2019年1～3月期) までの見通しを調査している。
 4 △は景気の山、▼は景気の谷、() 内は、その年月を表す。以下、同じ。

23

製造業ではマイナス幅が拡大

- 今期は、製造業ではマイナス幅が拡大、非製造業ではほぼ横ばいとなった。
- 来期は、製造業、非製造業ともにマイナス幅が縮小する見通しとなっている。

図2-2 業種別業況判断DIの推移



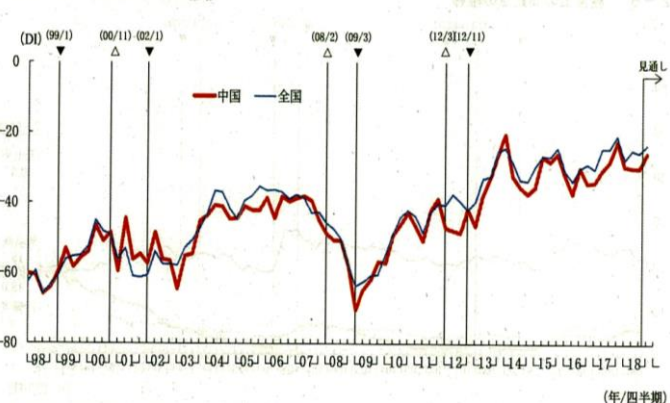
資料：日本政策金融公庫「全国中小企業動向調査 (小企業編)」
 (注) 「良い」企業割合 - 「悪い」企業割合。

24

中国地区の小企業の景況は…

- 平成30年7月豪雨の影響により悪化しているものの、先行きは持ち直しの動きがみられる。

図2-3 業況判断DIの推移



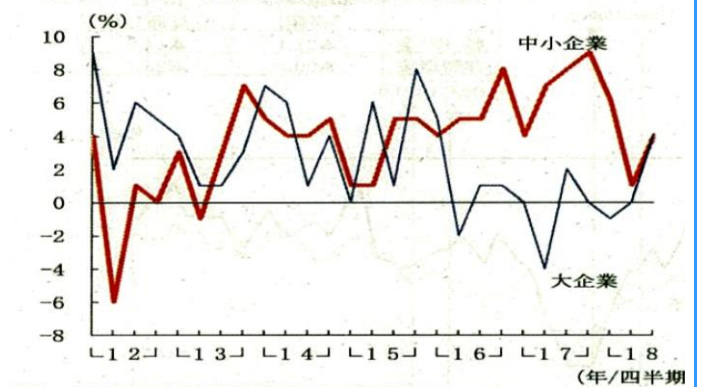
資料：日本政策金融公庫「全国中小企業動向調査 (小企業編)」
 (注) 「良い」企業割合 - 「悪い」企業割合。

借入環境

小企業の借入環境は改善

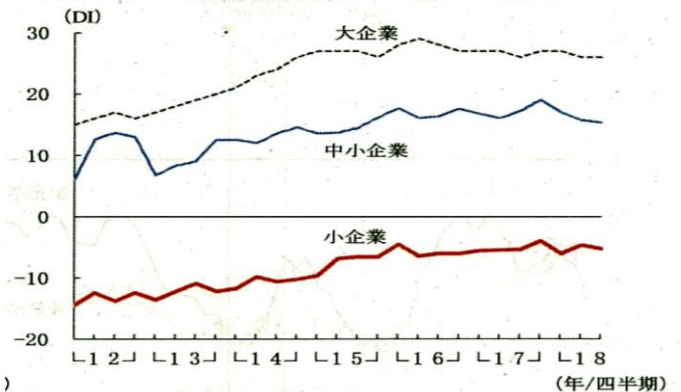
- 中小企業の資金需要は、足元では上昇している。
- 小企業の借入DIは、改善傾向となっている。

図2-4 資金需要判断DIの動き



資料：日本銀行「主要銀行貸出動向アンケート調査」
 (注) 過去3カ月において、(資金需要が「増加」とした金融機関割合 + 0.5 × 「やや増加」とした金融機関割合) - 過去(「減少」とした金融機関割合 + 0.5 × 「やや減少」とした金融機関割合)。

図2-5 貸出態度判断DI、借入DIの動き



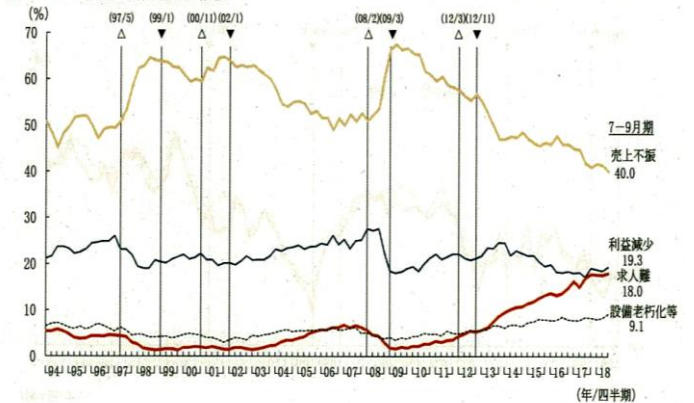
資料：日本政策金融公庫「全国中小企業動向調査」
 日本銀行「全国企業短期経済観測調査」
 (注) 1 小企業は借入DI。前期に比べて借入が「容易になった」企業割合 - 「難しくなった」企業割合。
 2 中小企業は長期借入難易DI。前年同期に比べて「容易になった」企業割合 - 「難しくなった」企業割合。
 3 大企業は貸出態度判断DI。「緩い」企業割合 - 「厳しい」企業割合。

26

求人難を懸念する企業が増加

- 経営上の問題点を見ると、「売上不振」が最も多い。
- 「求人難」は、上昇傾向となっている。

図2-6 経営上の問題点の推移



資料：日本政策金融公庫「全国中小企業動向調査 (小企業編)」
 (注) 当面の経営上の問題点について択一式で回答を求め、上位4位までを示したものを。

27